

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	4年度
事業名	資源リサイクル推進事業	担当課	市民生活課
事業内容(簡潔に)	空き缶やペットボトル等の資源リサイクルを推進する事業		

### 1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	美しいふるさとを誇れるまちづくり	
	政策	ふるさとの魅力と誇りを次世代につなげるまちづくり	
	施策	資源循環型社会の構築	
関連する個別計画等	環境基本計画 一般廃棄物処理基本計画 一般廃棄物処理実施計画（年度毎） ごみ減量アクションプラン	根拠条例等	循環型社会形成推進基本法 廃棄物の処理及び清掃に関する条例 容器包装リサイクル法

### 2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」等に基づき、一般家庭から排出される資源物を分別収集し、資源を再原料・再商品化する。また資源物として収集することで、生活系一般ごみの減量化を図る。
事業の手段	○市内にステーション 104 カ所・拠点 2 カ所を設け、業者との委託契約により実施する。 ・資源物回収委託(収集物：新聞紙、雑誌、ダンボール、紙パック、ミックス紙、OA 古紙、ピン（透明・茶・その他）、缶類、ペットボトル、白色トレイ、廃食油、インクカートリッジ) ①ステーション回収（1回/月 ※回収日は地区による）・地区管理及び指導 ②拠点回収 2カ所(市役所庁舎裏駐車場・龍岡公民館グラウンドは毎週土曜日) (委託により搬入指導業務) 収集された資源物は、委託業者により再原料化され、さらに再商品化業者によって商品化される。
事業の対象	市民全般の一般家庭から排出される資源物。 「容器包装リサイクル法」によるもの：ピン類・缶類・ペットボトル・白色トレイ・ダンボール・紙パック・紙製容器包装 「容器包装リサイクル法」以外のもの：新聞紙・雑誌・その他上記に該当しない紙類（ミックス紙）・OA古紙・廃食油・インクカートリッジ

### 3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		元年度	2年度	3年度
A	事業費 (千円)	17,991	19,247	21,716
財源内訳	国・県支出金			
	その他(使用料・借入金ほか)	6,897	5,143	7,102
	一般財源	11,094	14,104	14,614
B	担当職員数(職員E) (人)	0.35	0.35	0.35
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	2,350	2,301	2,304
D	総事業費(A+C) (千円)	20,341	21,548	24,020
主な事業費用の説明	主な事業費は各地区、拠点などの資源物収集場所から再生・処理施設まで運ぶ収集運搬業務委託料及び処理委託料。			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)、3年度(6,582千円)を使用しています。

### 4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			元年度	2年度	3年度
活動指標	1 回収回数(各地区) // (拠点)	地区 104ヶ所×毎月1回 拠点 毎週土曜日2ヶ所	1,248 104	1,248 102	1,248 102
	2 資源物売払収入(円)	古紙類、缶類及び配食油の売却益	1,701,962	707,342	1,080,418
	3 資源物再生処分費(円)	上記以外の資源物の再生処理費用	2,268,405	2,767,359	2,575,664
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	各地区回収については、衛生指導員・区役員を中心に分別指導やステーションの清掃などを行い、適正に運営されている。拠点回収についても委託した指導員が分別指導にあたり適正に運営されている。拠点回収は、年末休業以外は祝日も実施し、利用者の利便性に配慮している。			
	2	新聞紙・雑誌・ダンボール・牛乳パック・OA古紙・缶類・廃食油の売払額（市場単価から再生処分費用を差し引いた金額）。令和元年度と比べ市場単価の下降により売却益が減少し、事業費へ充当する金額も減少してきている。			
	3	令和元年度と比べ、ミックス紙・ピン・ペットボトル・白色トレイの再生処分費用や処理費用は増加しているが、ごみの分別を通じ資源リサイクルの推進につながっている。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値			
			元年度	2年度	3年度	
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	1人当たりの年間資源ごみ排出量(kg) 資源物収集量/年度末人口 655,460/29,124人(元年)	22.50	21.72	20.68	
	2	資源物収集量(廃食油含まず) 〔収集品目〕	単位:t・ℓ(廃油のみ)	655.46	632.56	594.79
		・ミックス紙		51.26	55.29	54.25
		・OA古紙		1.98	2.48	0.93
		・ビン類		49.33	49.72	46.16
		・白色トレイ		1.57	1.61	1.54
		・ペットボトル		20.20	20.24	20.35
		・新聞紙		251.52	213.24	212.25
		・雑誌		123.71	126.25	104.01
		・ダンボール		140.44	147.58	140.33
・牛乳パック		2.64	3.24	2.68		
・缶類		12.81	12.91	12.29		
・廃食油		1,000	760	800		
3	リサイクル率(%) (第7次総合計画によるまちづくり指標は2022年度目標値11%)	資源物収集量/生活系ごみ 収集量+資源物収集量	9.95	9.61	9.36	
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない				
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	令和元年度と比べ、雑誌や新聞紙等が特に減少傾向にあるが、スーパーやホームセンター等の民間回収場所の増加や、電子書籍等により紙が減少している事が影響していると考えられる。				
	2	全体の資源物収集量は年々減少しているが、ペットボトルや令和元年度より啓発をしているミックス紙は増加し、効果が表れている。資源物及びごみ収集量、リサイクル率を指標とすることは、事業の成果を図る上で、妥当である。				
	3	一部を除き資源物収集量が減少傾向にあるため、減少傾向になっている。				

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)	
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)	
	令和4年度の改善計画(今後の事業展開説明) <ul style="list-style-type: none"> <li>資源リサイクルについては、ミックス紙の回収を伸ばすため、HPや広報等で周知を図り、各地区の資源リサイクル会場にて啓発用の紙袋を配布する。</li> <li>広報やHP等にて、資源リサイクルやごみの排出に関する様々な情報を周知し、さらなる市民啓発を図る。</li> <li>市民が参加する会議や協議会においてミックス紙の回収についての啓発を行う。</li> <li>ペットボトルについて民間事業者と協定を結び、水平リサイクルを推進する。</li> <li>ごみの減量化と資源物の収集量を増やすためプラスチックの一括回収を実施し、さらなる資源物の回収に努める。</li> <li>プラスチックに関する出前塾のメニューを作成し、周知啓発を行う。</li> </ul>	
改善の経過	平成4年度から紙類(新聞、チラシ、雑誌)収集開始。平成8年度牛乳パック追加。平成10年度からビン類、ペットボトル追加。平成12年度から缶類、ダンボール、雑誌、白色トレイ追加。平成23年度から市役所庁舎裏拠点収集を第2・4土曜日から毎週土曜日に変更。平成26年度から廃食油、OA古紙追加。平成26年9月より、旧やまとフジモール店での拠点回収を廃止、龍岡公民館グラウンドの拠点回収の毎週化。平成29年9月より、拠点収集所でのインクカートリッジ追加。平成29年度より、「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」へ参加し、携帯電話の回収を開始。令和元年度に、「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」携帯電話回収終了(規定量に達したため)令和元年度より、資源リサイクル推進啓発物品としてミックス紙用回収袋を配布。	
直近の評価結果	内部評価	2年度 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
	評価時の改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源リサイクルについては、ミックス紙の回収を伸ばすため、HPや広報等で周知を図り、各地区の資源リサイクル会場にて啓発用の紙袋を配布する。</li> <li>広報やHP等にて、資源リサイクルやごみの排出に関する様々な情報を周知し、さらなる市民啓発を図る。</li> <li>市民が参加する庁内会議や協議会においてミックス紙の回収についての啓発を行う。 「対象外」</li> </ul>
	外部評価	対象外 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
	評価時の対応	対象外
課長所見	住民と取り組む“限りある資源のリサイクル事業”は、地球規模の温暖化対策やSDGs達成に繋がるものとして重要であり、今後更に住民が取り組みやすい環境の整備を行う必要があると考える。	